

がんばるバイクショップの 情報マガジン

ヤマハニュース

# Yamaha News

特集●期待ふくらむMAJESTY

## “新スポーツセダン”は いかが？

ハローナイスショップ●YSP高座渋谷

### 24時間、店を 眠らせない商売

YAMAHA NEWS●インタビュー⑧

上原酒造株式会社

### 国内初の地ビール

1995 No384

8

AUG

日々、クルマの河を泳ぎながら、決して流されない、のまれない。マジェスティ。スマートで快適な走りが、選りすぐりの道さへ旅に連れてしまう。都会で暮らす者には、そんな“ゆとり”が必要だ。

# ハローナイスショップ

YSP高座渋谷  
神奈川県大和市（荒井麗雄 社長）



暗がりの中に浮かび上がる店舗のアピール度は抜群。店舗正面には話題のニューモデルを展示して注目を高めている

# 24時間、店を眠らせない商売

閉店後を効果的に使う、店のショーアップ作戦

「コンビニは24時間体制で営業している。ファミリールストランだって終日営業になっているところが多い。街は今や24時間動いているのが当たり前になっているんです。バイクショップがこの例外であっていいとは思えないですよ」

YSP高座渋谷さんは湘南海岸の入り口、国道467号線沿いに立地している。道はシーズンを問わず海に向かう若者のクルマが行き交い、あるいは近所のマンモス団地の住人が通り過ぎる。これが夜ともなれば、コンビニやガソリンスタンド、中古車展示場の明かりが灯り、列をなして人々の目を誘う。まさに眠らない通り、闇を知らない街だ。



「うちは毎朝、店を始める前にショールームのガラスを磨くんです。ところがあるとき気づいた。前日に汚した覚えのないガラスが、朝になるときまって手の脂でべたべたと跡になっている。従業員に聞いても「触っていません。なぜだろう——」その答えはやはり閉店後にあつたんです。若い子たちが閉店後の店に来て、ショールーム内のバイクを見ていたんですね。夜遊びのついでに、コンビニに立ち寄ったついでにウチの店を覗いてい

## YSP高座渋谷

小田急江ノ島線・高座渋谷駅から徒歩3分の位置に'86年オープン。商圏は近隣の大和市の3団地のほか、隣接する横浜市、綾瀬市などにも広がる。店の前は国道467号線、通称藤沢街道が通り、夏には湘南海岸への入口として賑わいをみせる。スポーツバイクを中心に団地の主婦層へのスクーター販売も大きなウェイトを占めている。



「24時間体制で商売を考えたい」という荒井社長(左から2番目)



交通量の多い通りに向かって、お店の存在を知らせるYSPの看板。あたりが暗くなる日没後のほうが逆目に目にも留まるようだ



本体だけでなく、用品コーナーにもライティングの演出が……。売れ筋商品を中央に集め、そこに150ワットの強い光を当てることでインパクトを与えている。

たんです。街は24時間で動いている。ならばウチも24時間という単位で商売を考えていこう、そのときこう思ったんですよ」

24時間体制の商売。社長の荒井麗雄さんが考えたのは、閉店後にもショールームを積極的に「見せる」ことだった。荒井社長の言葉を借りれば、「覗きたい人には覗かせてあげよう」という商売だ。具体的には店を閉めた後にも、照明は切らない。ただ照明をつけておくだけでなく、入口正面には話題の商品を置いておく。さらに展示するバイクは定期的に替えていく。もちろん駐車場は常時入れるように開けておく。ちなみに照明は、荒井さんが出社してから開店するまでの1時間しか切ることはない。じつに23時間は照明が灯っている計算となる。

「小さな工夫も考えています。例えば、フラッシュライトを据えつける。定期的に点滅する光は人の目を引きまします。その下にメインのバイクを展示し、さらにフラッシュの光を有効に使うためバイクの下にはアルミのプレートを敷いている。フラッシュの光を反射して、バイクが効果的に照らされるんです」

工夫はまだある。ショールームにはいくつもの白熱灯のスポットライトが設置されているが、このスポットライトも照らす位置によって70ワット/150ワットと使い分けているのだとか。メイン商品は明るく、準ずる商品はやや暗くと、明るさにもメリハリをつけている。ちなみに電球はよく切れてしまうので、ストックは常に50~60個もあるそうだ。

「コンビニを見てもわかるように、人間は光に集まってくる。現実的に店の外に照明を設けられないなら、光を内から外へ向ければいい。コンビニの例で言えば、窓際のブックスペースが明るいのと一緒です。とにかく店の周囲に負けないくらい店が明るければ、必ず人は寄ってきます」

今夜もYSP高座渋谷のショールームにはこうこうと明かりが灯っているはずだ。店のショーウィンドウに顔をすりつけて、中のバイクに見入っている若者の姿が見られることだろう。

特集●期待ふくらむMAJESTY

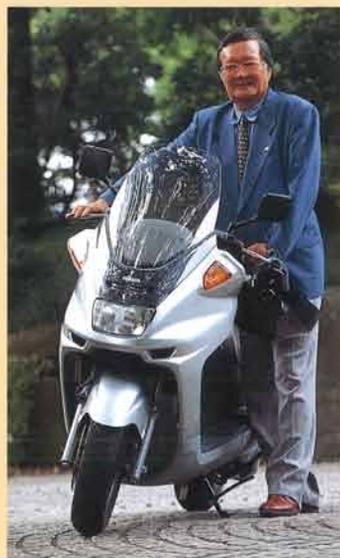
# “新スポーツセダン”は いかが？

250ccスクーターなら  
ではのゆとりあ  
るパワーとサイ  
ズを生かし、長  
距離走行も

快適にこなすコンフォート性を追  
求しながら、ヤマハらしいスポー  
ティな走りとデザインをも兼  
ね備えた“新スポーツセダ  
ン”。それが『マジスティ  
250』だ。

ヤマハ・ラインナップに  
新たな分野を切り拓く  
1台として、また同ク  
ラスの最新モデルと  
して、市場の注目は  
ますます高まるば  
かり。

そこで今回は、発  
売を今や遅しと  
待ち望む販売  
店さん、お客  
さまの期待の  
声を集めて  
みた。





開口一番「やっ」と出てきたね。ずっとこういう商品が欲しいと思っていただけ、がんばって売りますよ」と、田口社長は満面に笑みを浮かべて言いきった。

YSP目黒中央さんは、都心にはど近い目黒区・目黒通り沿いにある。そのため、周囲の町や遠く横浜方面から都心へ通う、バイク通勤のお客さまが多いのだ。「250ccクラスの大きなスクーターが欲しいんだけど、ヤマハにはないの？なんていうお客さまがくると、シグナスとかビラーゴをすすめてたりしてね。けっこううれしい思いもしたんだよ。でもこれからは大丈夫。8月が待ち遠しいね」

そのマジステイ、試乗会で実際に触

れ、乗ってみた上で、田口社長はさらにこう語ってくれた。

「見た目のインパクトがすごくあるね。特にフロントビューが気に入りました。本当にスポーツバイクみたいでカッコいい。背広で乗ってもよく似合うし、シテイコミューターとして街で映えるね、きつと。」

実車が届いたら、さっそく私も自分用に1台下ろして乗るつもり。町なかで走っているのをたくさんの人に見てもらうことが、なによりのアピール方法になると思うしね。

走行性能にもまったく文句ない。乗り心地はすごく快適。コミューターっていうより、グラインド・ツアラーって感じがな。新スポーツセダン？ うん、そうだね。

ただ、売りのポイントとしてはやっぱり通勤がメインだろうね。何人かのお客さんにはもう話をしたんだよ。そのなかで、横浜から東京へ通ってくる人で、40歳くらいかな、今もバイク通勤してるんだけど、かなりいい感触があるね。そのほか、若い人では26、27歳のジールとセローのオーナーが欲しいって言ってたし、需要は確実にあるよ」

しかし、実際に乗ったことがあるのは今のところ田口社長だけ。気にいったと

いうお客さまの注目のポイントはどこだろうか。

「やっぱり、フロントビューは好評ですよ。それと、タイヤが12インチだという点も評価が高い。これまでに乗ってたスクーターでは安定性とか乗り心地に不満があったのかな。」

だから、今後お客さんにマジステイをすすめる時でも、この2点は十分セールストークに使えると思いますよ。だけど、一番のポイント、250フルサイズというゆとりと快適性じゃないかな。

ターゲット層は、年齢で30代がメイン。次に20代、50代、40代の順かな。一見ポリウムゾーンに見える40代は、ちょうど子供さんが中学、高校に進む頃で、代替えや増車をしたくても我慢しちゃうと思うんです。

とにかく、我々にとっては何もかもが新しい商品。がんばって売らなきゃね！」

# 待ちに待ったこの1台！ まず自分で乗ってアピールしたい

YSP目黒中央  
田口正光社長  
(東京都目黒区)



# まさに“新スポーツセダン”!

## 付加価値の高さを幅広くアピールしたい

### YOU SHOPマカペ2 真壁和信社長 (東京都練馬区)

スクーターを、単なる移動の足として考えるなら、50ccや90ccもあれば十分。それなのに250ccスクーターが人気を得ているのはなぜか? それを真壁社長は「付加価値が大きいからです。高速道路が走れるとか、物がたくさん積めるとか、そういうことはもちろん、より快適だとか、走ることに楽しさというようなことまで含めてね」と説明する。

「その点、マジエステイはこれまであった同クラスのスクーターと比べると、実用面だけでなく、スタイルや走行性能、快適性の向上にすごく気を使っているでしょう。」



例えばフロントのツラがまんなんで、1000ccのツアラーみたいに見える。スクーター離れたスクーターだね。走らせればスポーツテイストも十分に感じられる性能を持っているし、ツーリングだってイケる。

最初は通勤とか実用面が主目的で買われるかもしれないけど、使い方はそれだけじゃないぞって思わせるバイクなんです。そういう意味で、新しいスポーツセダン”っていう呼び方はまさにぴったりじゃないかな”

だからこそ、従来の250ccスクーターが持つポリウムゾーンではない、25歳くらい若いアダルト層にもどんどんアピールしていきたいという。

「売る方が、こういうお客さんには合わないとか、偏見を持つちゃダメだと思っんです。むしろ、お客さんのプロフィールに合わせて、年齢とか使い方にこだわらず、幅

広く売ってける商品。50ccのスクーターを探しているお客さんには47万9000円という値段が現実的じゃないかもしれないけれど、スポーツバイクを持っている人とか、あるいは以前乗っててもう一度バイクに戻ろうかと考えているような人には買いやすい値段だと思っし、私は手始めにこの層からアプローチしようかなと考えています。

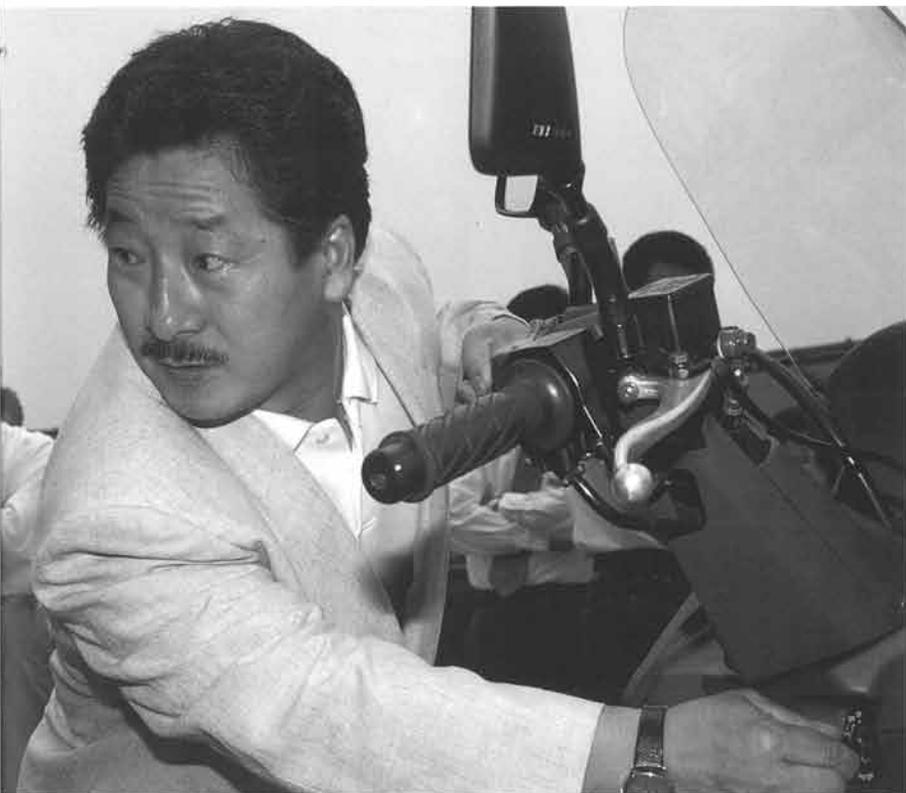
スポーツバイクを知ってる人たちなら、実用面もさることながら、快適装備の走行性能などに敏感ですから、マジエステイの魅力が一番伝わりやすいはず。

セールスポイントを挙げるとすれば、まずは特徴的なフロントビュでしよう。さっそく折り込み用のチラシを作ったんですが、カタログみたいに正面からの写真がドーンと入れましたし、「新スポーツセダン」というキャッチフレーズもそのまま使いました。

もうひとつは、私が乗ってみて感じたことで、サスペンション性能の良さかな。それと落ち着いた安定感のあるハンドリングが印象的でしたね”

そのほか、同クラスのスクーターでは最新モデルなので、カタログを見ていろいろ検討するタイプにはスペック上の優位性も欠かせないメリットだという。

「私の理想でいうと、とにかくカッコよく乗ってほしいんですが、実際はどういうタイプのお客さんがくるのか、今までに扱ったことのない商品だからわかりません。でも、その分楽しみではありますね。今のうちにじっくり商品知識を仕込んでおかないと、」





オートサロン・オギヤマさんの店内シ  
アは、スポーツ車とコミューターがほ  
ぼ半々。そのなかで、コミューターの9  
割近くは通勤需要だという。

「このあたりは、電車やバスなどの交  
通機関も十分あるんですけど、電車がキ  
ライとか時間がかかるといった理由でバ  
イクを通勤に使うお客さんが多いんで  
す。だから、車種選びはまったく実用性  
最優先。排気量も、会社まで通う距離や  
交通事情などによって左右されますね。」

例えばウチの店を中心に考えると、渋  
谷から先、銀座、新宿なんていうともう  
50ccではつらい。そうすると、毎日通う  
道ですし、少しでもラクで疲れにくい方  
がいいですから、125ccや250ccの  
スクーターがけっこうよく売れるんです。  
ウチはこれまでも250ccスクーター  
をいろいろ扱ってきましたが、マジエス

# ターゲットはズバリ通勤客！

# 快適機能の高さが決め手

「テイもやはり他社のと同じように通勤用  
として買うお客さまがほとんどと思っ  
ます」と増田部長。セールスポイントに  
ついての見方も、実用的な機能に注目が  
集まった。

そのなかで、まず外観や車格に関して

は、  
「日本の道路事情、保管事情を考えると  
ベストマッチの大きさといえるでしょ  
う。デザインも斬新で、ニューモデルと  
してのインパクトが強いから、ステー  
ジに乗せればすくなく注目されると思いま  
す。それと、大

型のカウルはウ

インドプロテク

ション効果が高

いと聞いている

ので、雨の日や

冬でも快適に走

れそうですね。

通勤者には、こ

ういうところが

ありがたいもの

なんです」

さらに、使い

勝手の良さでは

収納スペースに

注目。

「私も250cc

のスクーターを

実際に使って

るんですが、フ

ロントトランク

は、カッパとか

ウエス、ファ

ストエイドキ

ットなんか入れ

るのに使いた

いで

すね。それと、フロアの小物入れは、そ  
の気になって考えるとけっこう使い途が  
ありそう。トランクを目的別に使い分け  
たい人にはウケるんじゃないかな」  
しかし、増田部長が何より大きなセー  
ルスポイントだと指摘したのは走行性  
能。

「ハンドリングの安定感、乗り心地の

良さは最高！ 12インチのタイヤサイ

ズ、セリアーニタイプフロントサスペ

ンションが利いてるんでしょう。わず

かな試乗だったけど、実に快適でした。そ

れに、フロントブレーキも245φディ

スクの2ポットキヤリパー付き。これ

なら高速道路に乗っても安心でしょう。

このほか基本的な機能は他社のとそう

変わらないはずなのに、それぞれが実

によく作り込まれてる。さすが最新モデル

だな。

店頭では、すでに告知ポスターを作っ

てお客さんと商談も始まりましたし、毎週

やってくるチラシのポステイングにもマジ

エステイを加えようと思ってます。この

手のバイクは、ドカンと派手な売れ方は

しない代わりにシーズンの波が少ないの

で、コンスタントに月4〜5台ペースの

売り上げを期待したいですね」

オートサロン・オギヤマ  
**増田裕亮部長**  
(東京都大田区)

# マジエステイの発売に 広がる期待の声

発売直前、東京都練馬区の“ヤマハ豊玉モーターサイクルショールーム”に特別展示されたマジエステイ250。話題のニューモデルを一目見ようと駆けつけたお客さまの言葉から、マジエステイの魅力を探ってみた。



宮本一弘さん

コンピュータープログラマー。バイクは16歳以来親しみ、とくにRZV500やTZR250などスーパースポーツを中心に乗り継いできた。買い物用のJOGが盗難にあい、これをきっかけにマジエステイ購入を検討中。練馬区在住、29歳。

かねてから思っていたんですよ、大型スクーターのブレーキやサスペンションはこれでもいいのだから。スクーターっていても、排気量は250cc。街ではクルマの流れをリードして走らるだろうし、高速道路の流れにも乗って走れる。多用途に使える大型スクーターだからこそ、ブレーキ性能やサスペンション性能には十分以上のものが、必要なんじゃないでしょうか。

マジエステイ? いいですね。第一に12インチのホイールがいい。都心の道路は工事がひんばんで、意外にデコボコが多いでしょう。最近では地下鉄の工事があちこちで行われていて、いたるところが鉄板で覆われている。そのうえマンションなんかの障害もあって、走りにくい。大きいサイズのホイールはこうしたギャップにも振られることが少ないと思いますよ。それに驚かされたのは、ブレーキ。フロントに245φのディスクと2ポットキャリパーです。レーサーレブリカを乗り継いできた僕なんかには、インバクトのあるブレーキです。レブリカに乗ってきた経験から言えば、安心感のあるブレーキがあったこそ街でも俊敏に走れる。速さに見合ったストッピングパワーはこれもう絶対に必要ですよ。速いけど止まらないバイクじゃ怖いですもんね。インバクトという点では、デザインにも驚かされました。スクーターには見えませんが、このデザインは、正面から見たら、まるで

## スクーターと違って250cc安全装備に“過剰”はありません

でGTS1000。エアロなデザインなんだけど、そのエアロの時代さえも超えちゃっているような……。スクーターにこのデザインを組み合わせるって、出てくる答えは「スポーツ」ですよ。マジエステイはまんまスポーツツアラーのイメージですよ、これは。レーサーレブリカに乗ってきた者としては、スクーターに違和感を持っていました。でもね、マジエステイなら胸を張って乗れますよ。買ったから、夫婦で温泉ツーリングなんかに出たいよね。ワインディングがふんだんにあるルートを通ってさ。

## 250ccスクーターを物色中 ほとんど気持ちは固まっているんですけどね



齋藤たか子さん

主婦。ツーリング派のご主人の影響を受けて中型免許を取得。タンデムシートに満足できず、現在ツーリング用の大型スクーターを物色中。杉並区在住、31歳。

この5月に中型免許を取って、初めての愛車を物色しているところなんです。250ccのスクーターに的を絞って検討しているのですが、その第一候補がマジエステイなんです。実はもう、ほとんど気持ちは固まっているんですけどね。

私が免許を取ったのは、主人と二人でツーリングに行くためなんです。今までは主人の後ろに乗せてもらっていたんですけど、タンデムだと高速道路を走れません。だから、自分のおのずと行く先が決まってしまうんです。そこで一念発起、免許を取ろうと……。なぜ大型スクーターなのかと言いますと、実は先日、レンタルバイクショップで250スクーターを借りて信州を走ってきました。その時に「スクーターでも十分にツーリングが楽しめる」ことを実感したからなんです。免許を取ったばかりの私にとって、オートマチック車の安心感は絶対的なものですね。主人のベースにも無理なくついて行けることも、大きなポイントだと思います。

## 都心の渋滞に 立ち向かうには

## “安心感”が 絶対必要な装備

以前、250ccのスクーターを借りて乗ったことがあるんです。ところが

こいつがどうにも満足できない。高速で法定速度をちょっとでも超えると、怖い、こわい。風に対する安心感とかハンドルの中立感といった部分でね。そして怖かった最大の原因がフットブレーキだったんです。

僕はもう圧倒的にハンドブレーキ支持派なんです。その理由ですか? ブレーキをかけたよつというときは、通常、スピードを緩めなくてならないようなことが生じているからでしょう。そんなときにはだいたいマシンも

向ヤスシさん

イラストレーター。バイク歴15年。オフ、スモール&ビッグと種類を問わず乗り継いできた。現在は125ccのスクーターで都内を走り回ることがほとんど。調布市在住、32歳。

特集●期待ふくらむ  
**MAJESTY**

僕はね、仕事の合間に皇居の周りをジョギングしている。だからジョギングシューズはいつも携帯してはくちやならない。そして僕のもう一つの趣味が、銭湯めぐり。都内にはおよそ1000か所ほど銭湯があるんだけど、仕事の帰りに銭湯に入るのが楽しみなんだ。この、銭湯に入る時の着替えや石鹸なんかもスクーターにはぜひ入れておかないとちやいない。いま通勤に使っているのはアクシス・プロフットなんだけど、アク



# "SLEEK"なデザインは ギリシャ彫刻の肉体美

(カルロス・デレオン)  
**Carlos de Leonさん**

語学教師。日本には8年前に来日。都内でいちばん自由になれる乗り物として、50ccのスクーターを愛用している。奥さまの典子さんと一緒に移動できる手段として、マジェステイに興味を持っている。練馬区在住、35歳。

SLEEK [sli:k] a. つやつやした、なめらかな；きちんとした；しゃれた (後略)  
三省堂・デイトリーコンサイス英和辞典より

**大沢益雄さん**

模型制作者。オフロードバイクやスクーターをいつも乗り継いできた。メンテナンスをはじめ、小さな整備は自分でしてしまうほどのメカ好き。新宿区在住、33歳。

マジェステイ、カッコいいね。スタイルがいい。マツスルで、パワフルなデザイン。例えて言えば、そっぴいなあ……、ギリシャ時代の彫刻があるでしょう。その中で、古代オリンピックの選手像などは鍛えられた人間の肉体を本当に美しく表現している。人間の完璧な肉体美、マジェステイにもそんな共通の美しさを感じるね。

ギリシャの彫刻像がなぜ美しいか。それは鍛えられた肉体が、エネルギーを余すところなく、ひじょうに高効率で使いきっている様子を表現しているから。マジェステイのデザインにも「高効率」を感じさせられるんだ。そこがギリシャ彫刻とマジェステイの共通点だと思っただけです。日本風と言えばスマートなデザイン？ かな。英語風に表現するとすれば、そう、SLEEK。スリークなデザインなんだよ。

シスに代わるスクーターも収納スペースが大きいことは絶対に必要な条件なんだ。ジョギングシューズに銭湯グッズ、マジェステイにはどちらもしまっておける収納スペースがある。そこが魅力だね。

僕はもうすぐ35歳になるんだけど、でも、心はいつも25歳だと思っっているんだ。そんな僕にマジェステイは似合っていると思うんだ。マジェステイは自尊心を満たしてくれるバイクだと思うよ。2年後にはアメリカに帰国する予定なんだけど、マジェステイを買ったらこいつも連れて帰りたいと思っっている。ユニークなデザインは、きっとアメリカでも注目の的だと思う。周りのライダーにも鼻高々だね、きっと。

## 『アキラ』が現実になった 目指していたものが 目の前に現れた

跨がってみましたよ、マジェステイ。ポジションの良さは本当にグッときました。

僕は今までいくつものスクーターを乗り継いで来たんです。50から25までね。ただ、どのスクーターのポジションも僕には満足ができなかった。だから自分でシートのアングを抜いたりして工夫してきたんです。でも今日マジェステイに乗ってはいきりした。僕が目指してきたのは、まさにマジェステイ的なポジションだったんです。



ような、近未来バイクのイメージですよ。あの漫画に出てくるバイクは、速いんだけど決して前傾姿勢には描かれていない。速く走る『前傾ポジション』というのは、本当はあまり意味がないんじゃないかと思わせられるんです。乗り物として完成されていけば、あえて前傾ポジションになる必要はない。そう考えると、マジェステイのポジションはまさにアキラ的な、新しい時代のものなんじゃないかって思っってしまうんです。『アキラ』が現実の世界になったようで、マジェステイの登場は嬉しいですよ。

僕はね、自分のバイクはできるかぎり自分でメンテナンスするタイプなんです。そういう点からみても、マジェステイには嬉しい部分がいっぱいある。まず、水冷エンジンのクーラント補給。マジェステイのクーラント補給口はフロントボックスの中にあって、比較的簡単にクーラントのチェックができそう。それに、マフラーの取りつけ方法もメンテナンス性を考えているみたいだし。今までのスクーターはリアタイヤを外すのも容易じゃなくて、結局はタイヤ交換でもバイクそのものをショップに持ち込むしかなかった。マジェステイならマフラーを簡単に外せるから、リアタイヤを自分で外してタイヤだけをショップに持ち込むことができそうだね。



不安定な場合であることが多い。そこへさらにブレキングすると、荷重は前に移動して車体姿勢が変化し、不安定さが増すんです。そんなときフットブレイキだと、踏ん張れないし、ブレイキを微妙に扱うことがとても難しい。マジェステイのようなハンドブレイキなら、不安定な条件下でも安定した操作ができると思うんですよ。毎日、都内の渋滞をくぐり抜けている身には、操縦の安定性は何より必要だし、結局は疲れにくいことにもなるんです。

毎日渋滞の中を走るといって、マジェステイのこのボディの造形も魅力に映りますね。座ってポジションを確かめてみたんだけど、フロントのカウルからタイヤまでが見切りやすい。これは大切なことなんです。僕なんかは渋滞で止まっているクルマの間を右に左にすり抜けて行くでしょう、見切りが悪いとフロントのカウル部分をクルマのバンパーにこすっちゃうたりして。今までのスクーターではカウル部分を何度も割ったことがありました。都内を走るときを考えれば、マジェステイの大きなハンドル切れ角とこの見切りやすさは大きな武器ですよ。

マジェステイは、もう買おうと思っっています。買ったら？ それはもちろん友達の家を片っ端から回って、みんなに見せびらかしに行きますよ。せつかくこんなカッコいいバイクを買うんですから。

# 情熱と 行動力が生んだ 国内初の地ビール

'95年2月、新潟県西蒲原郡の上原酒造株式会社が  
国内初の地ビール生産と直営パブの営業を始めた。  
これまで日本では小規模工場での地ビール醸造は不可能だったが、  
昨年4月の酒税法改正により規制が緩和されたのだ。

それ以前から情熱的に地ビールの研究を続け、  
着々とビール醸造に関する技術の蓄積を行なっていたという同社は、  
規制緩和の情報を察知するや素早く行動に移り、  
国内地ビール生産の先陣を切ることになる――。



上原酒造株式会社社長、上原清一郎氏。日一トップで13  
年連続などを経験している際、地ビールの醸造もしさ  
はされる。帰国後、同社を代表方にて、文化イベントの  
健闘人としても活躍している。

# 上原酒造株式会社

上原酒造株式会社

本社所在地：新潟県西蒲原郡巻町竹野町2580

今年の2月に国内初の地ビール「エチゴビール」の醸造を開始。直営のブルーパブ（西蒲原郡巻町福井字山中3970）では、常時「自家製」のビールを直飲することができる。なお、ブルーパブの営業時間は午前11時～午後7時。毎週水曜日定休。

# TALK

上原酒造株式会社  
企画開発室  
中野登志子さん



くさ  
んあって、  
その土地独特のフ  
レッシュな生ビールが飲  
めます。これを地ビールと呼ぶ  
んですが、地場で生産され消費される大手



国内初の地ビール発売で注目を集めてい  
ますが、もともと我が社は日本酒を製造し  
ています。ですから社長（上原誠一郎氏）  
は上原酒造株式会社という酒蔵の5代目蔵  
元にあたるんです。もちろん現在でも人気  
の高い地酒「越後鶴亀」などを醸造してい  
るんですよ。  
ただ、社長は若いころイタリア古典演劇  
の役者をしておりまして、ヨーロッパで10  
数年間修業していました。そしてそのうち  
2年間のドイツ滞在で数々の優良な地ビー  
ルに出会い、深い感銘を受けたんです。  
ドイツの各地には小規模のビ  
ール醸造所がた

にはないオリジナリティとバラエティに豊  
んだ新鮮な生ビールで、なおかつ、その土  
地に相性の良い地方色豊かなおいしい料理  
があることが、良い地ビールの条件なんで  
す。良質の地ビールはとても個性的で、た  
だ冷やして飲めばいいというものではなく、  
品種や銘柄別に温度や器、そして飲み方を  
選ぶものなんですよ。  
こういった地ビールは地域と密着してい  
て、各地方のお祭りの際には盛大に地ビー  
ルが酌み交わされることも。そんなふう  
にビールと地方文化が融合しているところ  
にも、社長は感激したんです。

もともと社長は「自分の代になった  
ら何か新しいことに挑戦した  
い」という考えを持って  
いました。たとえその「新  
しいこと」が花咲き実を  
結ぶのが、百年後のことで  
あっても……。そんな気持ちとドイツでの  
地ビール体験が相まって、「自分でもビール  
造りをした」と5年ほど前に日本に帰国  
したんです。  
ただ、その当時の日本では年間製造見込  
数量が2000キロリットルという膨大な  
量に達していなければ、ビール製造免許が  
取れなかつたんです。しかし、社長はそこ  
で諦めずに、ビールに関する研究を続け  
ました。そして93年8月に規制緩和の動  
きをキヤッチすると、その翌月にはヨーロ  
ッパへと飛び、原材料を調達し、  
醸造設備の見積りを  
したり、



醸造法のさらなる研究や研修を重ねまし  
た。例えば、醸造技術に関してはドイツ・  
レーゲンスブルグのブルーマイスターと呼  
ばれる地ビール醸造者と一緒に研修したり  
ね。  
そうこうするうちに94年4月、規制が緩  
和され、年間製造見込量が一気に60  
キロリットルに引き下げ  
られたんです。それ  
を受けて7月に  
は国内試験醸

でお客さまの層は非常に広い。地域と密着  
した地ビールの良さが少しずつ浸透してき  
ているのかな、と感じています。  
それと、大きなジョッキで一気に飲  
むのもビールの飲  
み方の醍醐味ではあるんで  
すが、ここではあまり大きなグラスでは  
お出ししていません。お酒を飲むスタイル  
も、今までは随分と違ったものを提案で  
きるのではないかと考えています。  
今は年間を通じて8、9種類のビールを  
造っておりまして、パブではその中から日  
替わりで3、4種類ぐらいを出しています。  
その内容は、例えば淡色系のビール、黒ビ  
ール、その中間の茶色系のビールといった  
風に、パリエーションに富んだものを飲み  
比べていただけるようにしてお出ししてい  
るんです。  
今後の展開としては、まず「おいしいビ  
ールを造ること」が第一。ホップやモルト  
の自家栽培にも力を入れて、完全に地元産  
の原料からできた地ビールを造りたい。あ  
とはこのパブをひとつのステーションとして、  
音楽や芝居などいろいろなイベントを開催  
したいですね。要するに、ただビールを造  
って飲ませるだけの場所ではなく、地域の  
「出会いの場」にしていきたいと思えます。  
これが私どもが長年描き続けている夢なん  
ですよ。

# PIT IN

from SALES

## 専用告知POPの活用でマジエステイの実車展示をより効果的に演出ください

この夏、軽二輪車市場をにぎわす期待のニューモデル『マジエステイ250』が、いよいよ店頭にやってきました。

250ccスクーターのお客さまは、まず、店頭で実車を認知し、実車のあるお店に足を運ぶというだけに、いかにきちんと見せられるかが拡販のカギ。できるだけ目立つ場所に、しかも魅力的に見えるよう工夫して展示しましょう。

その時、特に大切なのは、他人に自分を覚えてもらう時と同じ要領で、顔と名前、そして自分がどんな人間なのかを知らせることです。

ヤマハでは、マジエステイの名前と機能をはっきりと、より効果的にアピールする基本ツールを4種セットで用意しました。これをもとに、車体の姿カタチがよくわかるようお店独自の演出を加えてください。また、年配の方は若い人より二輪情報から離れがち。専用DMセットが効果を発揮

from SERVICE

## 必要なサービスデータがすぐわかる！『デレホンデータブック』をご活用ください

お店での整備作業中、あるいはお客さまから電話の問い合わせで、サービスマニュアルなどを見てもなかなか必要なデータが探し出せなかったり、あるいは何を調べれば載っているのかわからなかったりしたことはありませんか？

必要な時に必要なものが出てこない、それがなんであれけつこうイライラするものです。し、電話口でお客さまを長くお待ちさせるのは信頼を失うもです。

そこで、ぜひ一冊常備しておきたいのがこの『デレホンデータブック1994』。例えば点火プラグの番号やシート高、タイヤサイズといった日常的なものでら

イブチエーのコマ数やイグニッションコイルの抵抗値など、お店やヤマハに対して問い合わせ頻度が多いデータばかりを、1973年から1994年までに発売された主要機種についてズラリ抜き出しています。

いわば、試験に出やすい英単語を集めた『アンチヨコ』みたいな本なので、「どれを見ればいいのか」と迷った時、まず最初

に開いて見てください。車種別の資料を探し、そこから必要なデータを探す手間がかなり省けるに違いありません。詳しくは、ヤマハの各サービス担当者までお問い合わせください。



DMセット フロントスクリーンPOP



リアシートPOP



SPORTY & COMFORT

MAJESTY 250  
ヤマハからビッグスクーター  
マジエステイ  
新登場!  
YAMAHA

のぼり

YAMAHA MAJESTY 250  
ヤマハから、ビッグスクーター  
マジエステイ 新登場!  
横断幕

WORLD TOPICS

## ケニーが、ラバードが、アゴスチーニがフランスGPをXJR1200で疾走！『ヤマハズ・スター・ショー』開催

7月8日、フランスのル・マンでは、ロードレース世界選手権・フランスGP予選終了後、そのブガッティサイキッドを使って大変華やかなイベントが行なわれ、レースにも劣らぬ注目を集めました。

『ヤマハズ・スター・ショー』と名づけられたこのイベントは、かつてGPシーンを

沸かせた名ライダーC・サロンの発表によりヤマハ・モーター・フランスが主催したもので、主役はヤマハXJR1200と歴代のGPチャンピオンライダーたち。

G・アゴスチーニ、K・ロバート、E・ロビン、C・ラバード、P・ロバート、F・ウンチーニをはじめとする12名のスターが、往年の栄光を再現したカラーリングのXJRで姿を現すと、会場からは盛んな声援が飛びかいます。そして、ひとりずつ15秒おきにコースインすると、それぞれがいろいろなパフォーマンスを演じながら周囲

R・モラのウイリーあり、レースさながらのバトルありと、めったに見ることのできないショーに、詰めかけた大観衆は惜しみない拍手を送っていました。

なお、この時に使用したXJR1200のうち1台が走行終了後オークションにかけられ代金はGPドクターを務めるコスタ医師の移動クリニックに寄付されています。



## ヤマハ二輪車整備士講習会

	8月			9月		
北海道				B		
東北						
東京		2M 5-7	2M 19-21	4M 12-14		
中部		B	4M 5-7			
関西		B	2M 6-8	4M 20-22		
中国						
四国						
九州		4M 5-7	2M 19-21			

## 4サイクル・スポーツ 1200~750c.c.

機種名	型式	排気量	最高出力	最高速度	全長	全高	全幅	シート高	最低燃費	最高燃費	備考
YZF1200	YZF1200	1200	18.5	180	2100	1400	750	800	25.0	35.0	
YZF750	YZF750	750	12.0	160	1900	1200	650	750	22.0	30.0	
YZF600	YZF600	600	10.0	150	1800	1100	600	700	20.0	28.0	
YZF500	YZF500	500	8.0	140	1700	1000	550	650	18.0	26.0	
YZF400	YZF400	400	6.0	130	1600	900	500	600	16.0	24.0	
YZF300	YZF300	300	4.0	120	1500	800	450	550	14.0	22.0	
YZF250	YZF250	250	3.0	110	1400	700	400	500	12.0	20.0	
YZF200	YZF200	200	2.0	100	1300	600	350	450	10.0	18.0	
YZF150	YZF150	150	1.5	90	1200	500	300	400	8.0	16.0	
YZF125	YZF125	125	1.0	80	1100	400	250	350	6.0	14.0	
YZF100	YZF100	100	0.8	70	1000	300	200	300	4.0	12.0	
YZF75	YZF75	75	0.6	60	900	200	150	250	2.0	10.0	
YZF50	YZF50	50	0.4	50	800	100	100	200	1.0	8.0	

機種名インデックスとデータ見開き掲載で、検索も簡単。注文ナンバー: 390937

YAMAHA  
デレホンデータブック  
1994

From AD

## 8月のヤマハ提供番組

- ヤマハON&OFF
  - ▶8月5日(ハマリン編)
  - 『迫力!マリッジットワールド②』
  - ▶8月12日(ハイク編)
  - 『太田潤スベシャル総集編』
  - ▶8月19日(ハマリン編)
  - 『SRVモンキーアイランドクルーズ』
  - ▶8月26日(ハイク編)
  - 『平忠彦・8耐の夏①』
- 提供: テレビ北海道、テレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知、テレビせとうち、TXN九州/毎週土曜日18時30分~18時45分。なお、次の局でも放送しています。静岡放送

## SPORTS TOPICS

### 上位大混戦を抜け出せるか 絶好調スキラッチを柱に ジュビロ、ラストスパート!

今季新加入のレイソル、セレッソを加えた14チームで展開されているJリーグ・サントリーシリーズは、7月、ついに大詰めを迎えました。

そのなかで、ジュビロは中山、スキラッチの「ゴン&ト」。コンビが絶好調。序盤戦からハイペースで得点を積みあげてチームをひっぱり、つねに優勝戦線にからむポジションをキープしています。

特に、スキラッチは第20節のレイソル戦でハットトリックを記録。さらには、7月12日第23節のアントラーズ戦まで5試合連続ゴールを含む合計22得点で、得点王争いのトップを独走中です。

また、この強力な2トップの脇を固める布陣も、服部、古賀の両サイドバックがスピード豊かな攻め上がりで切込み、日本代表の藤田、名波、鈴木将が中盤から高精度のラストパスを前線に供給する、というカタチが定着。それによって、オフ監督の理想とする攻撃的サッカーを身につけたジュビロは23節終了時点でリーグ3位の44得

送/毎週日曜日24時20分~24時35分。

- 95世界グランプリロードレース
- 500ccから125ccクラスにわたるヤマハレーシングチームの活躍にご期待ください。放映: TXN系列6局ネット・毎週日曜日24時30分~25時25分。テレビ静岡・毎週月曜日24時50分~25時44分。
- オリジナルコンサート 私たちの創った世界
- 放映: テレビ朝日系列全国ネット・毎週日曜日7時30分~8時00分
- 「ラジオ」ぼっくん王国
- ミュージックスタジアム
- 放送: ニッポン放送ほか16局ネット
- 提供日: 毎週月曜日、火曜日

点を挙げました。

残るゲームは24節以降3試合。首位マリノスに対して、ジュビロは勝点4差の3位(14勝9敗、勝点42、得失点差7)と微妙な位置ですが、まだ優勝の可能性も十分です。果たして結果はいかに?

ジュビロは最終節のジェフ戦を3対0で快勝し、通算15勝1敗、勝点45で5位となった



From Y.E.S.S.

## YESSSの新入会システムがスタート!! 店頭での入会促進をお願いします

いよいよYESSSの新入会システムがスタートしました。

7月1日からスタートした新制度では、主に入会および更新制度の見直しを図り、従来の現金会費を廃止するとともに、店頭での煩雑な作業を省略した「年会費自動引き落としシステム」を採用しています。お

手元の「YESSSショップマニュアル」をご熟読の上、新システムのスムーズな導入にご協力お願いします。

なお新制度では、ヤマハ新車購入者に限り初年度の年会費を無料に設定しています。お客さまとの未永いおつき合いのために、ぜひこの特典を積極的に活用ください。

## BOOK GUIDE

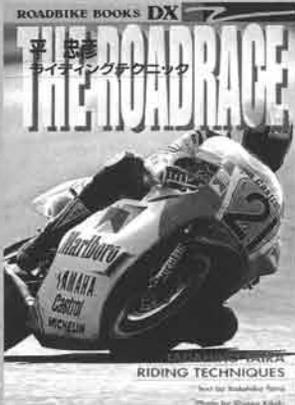
ロードレースで勝つためには  
どう走ればいいのか、何をすべきか?

### 『平忠彦 ライディングテクニク』

元ヤマハファクトリーライダー平忠彦さんが、初めてレースライディングのノウハウをつづった本『平忠彦 ライディングテクニク』が新発売されました。

これまでに出版されたテクニク本とは違い、日常のトレーニングに重きを置いた点がいかに平さんらしいところ。もちろん勝つためのライディングテクニクについては基本から丁寧な解説が加えられ日本の代表的なサーキットである鈴鹿、SUGO、筑波のコース図をもとに、攻略法も詳しく伝授しています。

また、GPカメラマンとして有名な木引繁雄氏によるベストショットや、平さんが同時期に活躍した7人のライダーについて語るページ、そして秘蔵写真を交えて明かす平忠彦の軌跡など、内容は盛りだくさん。レースに関わらない人でも、平ファンならぜひ読んでおきたい1冊です。



●木引プロダクション・編  
●実業之日本社・刊 1,500円



●「ヤングマシン」8月臨時増刊号  
●内外出版社・発行 500円

## 『SEROW 225W ハイヤースガイド』

前回、ヤマハニューズでも特集したとおり、セローはこの夏10周年を迎えました。店頭をはじめ二輪市場では、すでにさまざまな反響が見られ、セロー人気再燃の兆しもあるようです。そうしたなか「二輪専門誌」ヤングマシン」もこの動きをいち早くとらえ、8月臨時増刊号として「SEROW 225W ハイヤースガイド」を発売しました。

この本は、セローが10周年培ってきたマウンテントレールの世界を美しい写真と文章でリードしながら、「95モデルのライディング・インプレ、ヒストリー、ライディング・テクニクやメンテナンスの解説、周辺グッズ紹介など、あらゆる角度でセローの魅力に迫ります。

とりわけ、リブレイスタイヤ・カタログやライテク・一夜漬け講座といった企画は実用度も高く、林道経験の浅いオーナーにとっては大変うれしい1冊。これからのツーリングシーズンに向けて、多くのお客さまにご案内ください。



# PIT IN

MARINE TOPICS

## マリッジジャーの情報拠点 『ヤマハマリッジカウンター銀座』が 東京・銀座にオープン

ヤマハ東京では、これからマリッジスポット、レジャーを始めたいという方のための相談窓口「ヤマハマリッジカウンター銀座」を、東京都の中心地・銀座にオープンしました。

ここでは、ボートやヨット、マリッジジェットといった商品や各種イベント、ポートライセンスなどに関するさまざまな情報を手軽に手に入れることができ、具体的なご相談も可能です。

また、毎月第3日曜日を除いた毎日営業を行なうほか、場所から、会社帰りのサラリーマン、OLの方の来場も多いことを考えて、平日は午後9時までオープンしています。

これからのいよいよ本格的な夏。少しでもその気があれば、一度のぞいてみてはいかがでしょうか？ お客さまにもぜひご案内ください。

●ヤマハマリッジカウンター銀座  
東京都中央区銀座西8丁目5番銀座ナイン1号館 03-357212020



RACING TOPICS

## WSB 永井、世界に速さをアピール 初ポール&ファステストラップ獲得!

スーパーバイク世界選手権は7月9日、第6戦・オーストラリア大会でシーズンの半分を終了しました。そのなかでYZZF750を駆る永井康友、C・エドワーズ両選手は、トップ争いにも絡むなど健闘。

まず第4戦・サンマリノ大会は、エドワーズが第1ヒートで3位を獲得、参戦7レース目にして早くも表彰台に立ちました。スタートでは11番手と出遅れながらも14周

目には4位に浮上。16周目に3位に上がって、そのままチェッカーを受けています。また、このレースでは永井も第1ヒート5位、第2ヒート4位という好成績を残しており、ヤマハ・ワールド・スーパーバイク・チームはそろって好調ぶりをアピールしました。

そして7月9日に行なわれた第6戦・オーストラリア大会、永井は予選最終セッション

## 全日本 RR 藤原儀彦、ついにランキングトップ 後半戦に向けて好ダッシュ!

今季2回目の2ヒート制レースとなった第5戦・SUGO大会。第1ヒートはポールシッターの吉川和多留のリードで始まり、しかし4ラップ目に後方集団にアクシデントが発生、赤旗により中断となります。再レースでも吉川は再び首位争いを展開しますが、10周目に転倒を喫してリタイア。

代わってトップに立った武石伸也(ホンダ)が優勝し、2位争いを展開したYRTTの藤原儀彦が藤原克昭(カワサキ)に続く4位となりました。

さらに第2ヒート、マシンの修復が間に合わなかった吉川が欠場、藤原(儀)は藤原(克)、柳川明(カワサキ)と2位争いを展開、テール・トゥ・ノーズの激しいバトルの末に3位をゲット。これでランキング

ポイント数を67・5に伸ばした藤原(儀)が、ついにトップに躍り出ました。

またGP125クラスでは、テクノモーターエンジニアリングから出場の茨木繁が今季初優勝。今回は抜かれても負ける気がしなかったと語り、TZの開発ライダーとしての自信のほどをのぞかせました。ランキングトップを快走する宇井陽一も手堅く3位を獲得、依然トップを守っています。

GP250クラスでは芳賀健輔がラスト2周となってファステストラップを記録する走りを見せ、4台の激しいトップ争いが展開されますが、最終ラップに宇川徹と加藤大治郎のホンダ勢が転倒リタイア。芳賀は初優勝を果たした宮崎敦アブリアアにコンマ8秒差の2位を獲得しました。



ベテランらしい着実なポイントゲットが光る藤原。ランキングトップでシーズン後半戦を迎える。

RACING TOPICS

## CRANK CASE

### ■お店で聞いた ちょっといい話

#### “デモ車”を活用しよう

今回、マジスティの特集のなかで、YSP目黒中央の田口社長が「まず自分用に1台下ろしたい」と話していた。自分の印象をセールストークに反映できることはもちろんだが、なにより自分自身があちこち乗り回すことで、走っている姿をたくさんの人に見せてアピールするのが一番の目的だという。

人間は案外単純なもので、バイクに限らずクルマやバッグ、洋服、アクセサリーなど「あれ、最近町でよく見るな。売れてんのかな」と思うと、その商品について興味が出てくる。逆に売れまくっている商品でも、実際に見たことがなければ「ホントに売れてるの?」と疑ってしまうから不思議だ。

田口社長の狙いは、まさにそこにある。雑誌や新聞で広告が出されると同時に街を走っているマジスティが目に入れば、相乗効果で認知度拡大が期待できるし、希望するお客さまには試乗車としても活用できるというわけだ。

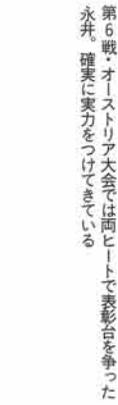
もともと、試乗車を用意すること自体珍しいアイデアではない。しかし、お店にとってはリスクを伴う投資である。最後に中古車として売れば新車の何割かは回収できるものの、マイナスには違いない。となれば、試乗車としてできる限りたくさんのお客さまに乗ってもらう工夫をすべきだし、ほかにも活用の手段があるのなら積極的に使って、1台でも多く販売につなげたいはずだ。

そこで、田口社長は試乗車を単なる試乗車として考えず、デモンストレーション用にとらえた。発想を変えれば今までと違う使い方ができる、という好例だろう。みなさんのお店でも、せっかくの試乗車がムダに眠ってはいないか、もう一度考えてみては?



このところ今ひとつ調子の上がらなかったカダローラは、3戦ぶりの表彰台に納得の笑顔

### WGP RR カダローラ、3戦ぶりの表彰台！ 原田は復帰戦で5位獲得



第6戦、オーストラリア大会では両ヒートで表彰台を争った永井。確実に実力をつけてきている

ロードレース世界選手権は7月9日の段階で第8戦を終了。すでに後半戦に突入しています。ヤマハ勢では500ccクラスのL・カダローラと250ccクラスの原田哲也が、ともにランキング3位につけており、チャンピオン争いの今後の展開に大いに注目が集まっています。

さて、その第8戦・フランスGPでは、カダローラが3戦ぶりに2位表彰台を獲得しました。

予選9位、2列目からスタートしたカダローラは、第1コーナーを3番手で抜けると、まもなくM・ドゥーハン（ホンダ）とD・ピーティ（スズキ）をパスしてトップに浮上する好調な滑り出しを見せます。

その後ドゥーハンに再び先行を許したもののピーティと2位争いを展開。ピーティの激しいアタックをしのぎ続けたカダローラは、終盤から少しずつアドバンテージを広げ、結局2秒近い差を保ったまま2位でゴールしました。

また阿部典史も、カダローラの後方で4位争いを展開。2台そろっての表彰台まで期待させる走りを披露しましたが、13周目、4位走行中に痛いコースアウト。すぐに再スタートして挽回を図りましたが、19周目に惜しくも転倒。リタイアとなって

ンで1分20秒271の好タイムでポールポジションを獲得しました。

その第1ヒート、7台もの大集団で展開された2位争いに加わった永井は、一時3位を走行。ところが終盤を迎えて周回遅れが現われ始めると、その処理に手間取る間にT・コルサー（ドゥカティ）とA・スライト（ホンダ）に先行を許し、5位となりました。続く第2ヒートでも永井は、A・ゴバート（カワサキ）、F・ピロバノ（ドゥカティ）、スライトと激しい3位争いを展開。結果は6位となりましたが、3位のゴバートとの差は僅かに0・688秒。ファステストラップもマークして、世界に実力の一端を見せつけました。

この段階で、永井はランキング7位、エドワーズは10位。第9戦でSUGOに帰ってくる時が楽しみです。

昨年ランキング8位から、今年は2位へジャンプアップのレワード

しまいました。

一方、250ccクラスの前田は第7戦・オランダGPの予選中に転倒。右腕の骨折のため決勝を欠場しましたが、続く第8戦には早くも復帰。完治していない状態ながらも競り合うなど気力溢れる走りを見せ、しかも着実に5位入賞を果たしました。

この時点でランキング2位のR・ウォルドマン（ホンダ）との差は、わずかに3ポイント。今後の巻き返しが楽しみです。



1月14日にオーストラリアで開幕したAMAスーパークロスシリーズは、6月10日のラスベガス大会で全15戦を終了しました。ヤマハ勢はL・ワード、J・エミツグがそれぞれランキング2位・3位を獲得し、J・ダウトも7位に入りました。

ワードの成績は、優勝こそありませんでしたが、2位3回、3位4回など常に安定した走りによるもので、トータル270ポイントを挙げています。

### US MX スーパークロス、シーズン終了 ワードがランキング2位を獲得 ナショナルではデーモンが復帰

8月27日、スーパーバイク世界選手権シリーズ第9戦がSUGOにやってきました。今年で8年目を迎えたこのシリーズは、4ストロークの市販車をベースとし、改造範囲の極めて制限されたマシンで行なわれるもので、その親近感や激しい接近戦が魅力となっており、近年、人気が高まってきているレースのひとつです。このSUGO大会には、世界選手権をシリーズで戦う海外勢に加えて全日本選手権スーパーバイククラスに参戦中のライダーも多数出場予定。両者の対決にも注目が集まっています。

ヤマハからは4名のライダーが出場。永井康友、C・エドワーズ、藤原儀彦、吉川和多留がYZF750を走らせました。第6戦現在ランキング7位の永井は、昨年は全日本ライダーとして出場。日本人初のポールポジションを獲得し、第1ヒート3位、第2ヒート5位という好成績を残しました。シリーズ戦を戦うライダーたちの中では誰よりもこのコースを知り尽くしているだけに、活躍に期待がかかります。

またエミツグは、最終戦でついに今季初優勝。M・キドラスキー（カワサキ）を抜いてランキング4位から3位に浮上しました。ダウトもシリーズ終盤を迎えた第12戦・ダラス大会で3位に入るなど、毎レース着実なポイントゲットを重ね、最終戦で2度目の3位を獲得。これによってヤマハは、最終戦でエミツグ、ワード、ダウトの1-2-3フィニッシュを達成し、有終の美を飾りました。

なお、チャンピオンは10勝をマークしたJ・マクグラス（ホンダ）でした。

一方ナショナルモトクロスは、7月2日の時点で第6戦を終了。250ccクラスでJ・エミツグ（ヤマハ）がランキング2位につけています。

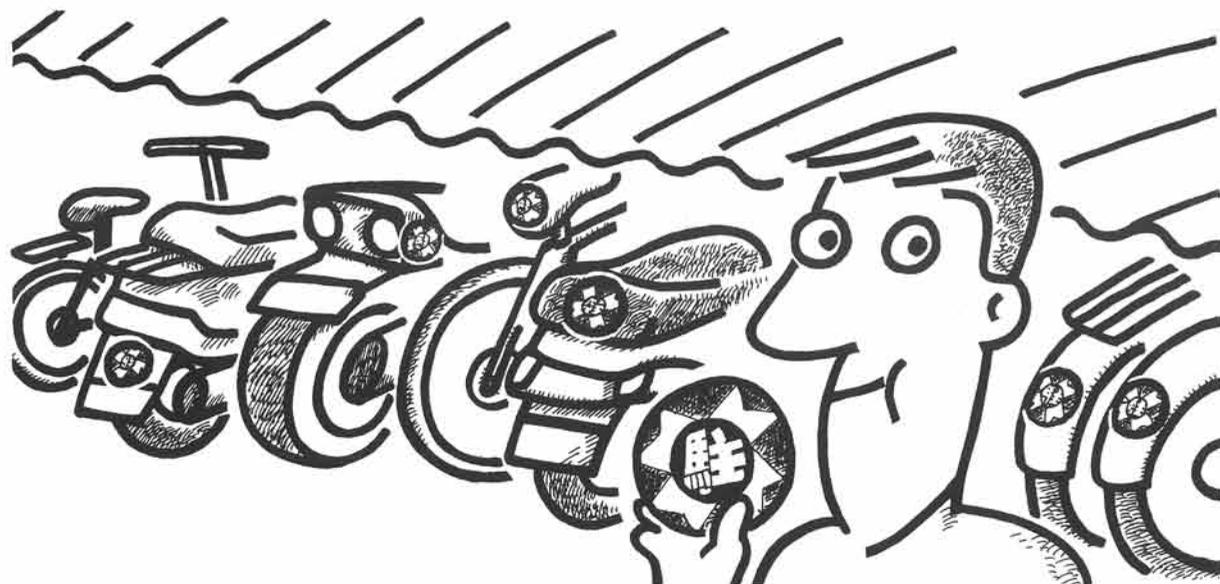
第2戦・サクラメント大会と第5戦・サウスウィック大会で優勝。これまでにトータル242ポイントを獲得しているエミツグは、現在ランキングトップのマクグラス（ホンダ）に13ポイント差まで迫っているだけに、シリーズ終盤の争いが楽しみです。

他のヤマハ勢はダウトが5位、K・ルイスが6位、ワードが8位などそれぞれ健闘。また、93年秋からレース活動を休止していたD・ブラッドショー（ヤマハ）が、第3戦・マウントモリス大会で復帰しました。約2年のブランクを感じさせない走り。第1ヒートは8位を獲得すると、第6戦では両ヒート4位の総合4位を獲得。ランキング12位まで浮上しています。



88年からスタートしたスーパーバイク世界選手権SUGO大会。毎年、見応えのあるレースが展開される

レイスウィークのスケジュールは、公式予選が25日（金）、26日（土）の2日間。27日（日）決勝は11時30分スタートとなります。観戦チケットは当日券が5,000円。前売り券（4,200円）はチケットぴあ、チケットセゾン、丸井チケットガイド、オールジェイネット他で取り扱っています。なおスタンド指定券などの詳細については、スポーツランドSUGO営業課（TEL0422-8314711）へお問い合わせください。



今月のテーマ

## 駐輪場問題

バブルの時代ほどではないにせよ、首都圏の駐輪場問題はまだまだ正常な姿とは言えません。慢性的な土地不足に加えて、運よく自宅近くの駐輪場にアキが出たとしても、驚くほど高額な駐車料金を支払うこととなります。

そこで見直されているのが駐車面積の少ない二輪車なのですが、スクーターやバイクの駐車に何も問題がないとかと言えば、そうでもないのが現状です。

神奈川県在住の大学生Aさんの話。

「今年の春、スクーターで通学できるように、学校のそばのアパートに引っ越したんです。アパートには自転車か6〜7台置いとけるような駐輪場があるんですけども、僕が引っ越してきた時にはもういっぱいの状態だったんですよ。それで仕方ないからハミ出した状態で停めておいたら、ここに置かないでください」という貼り紙をされました」

続いて東京都のベテランライダーBさんの場合。

「いま、動かないバイクを含めると、9台のバイクを持っています。もちろん置き場所には困ってまして、女房からは早く処分するように以前から言われてます。かと言ってどれも手放す気にはなれませんから、どうしようかなあと……」

Bさんの例は特別にしても、Aさんのようなケースはよく聞く話です。特に集

合住宅の場合は複数の家族が一定のスペースを共用するわけですから、トラブルだつて少なくありません。

しかし一方で、そうした物理的な問題、または感情的な問題を解決しようと、自治活動も盛んになっています。東京都内の団地に住むCさんは、そうした活動を中心になって進めている人物です。

「団地の中の自治会で、駐輪場の共通ステッカーを作ったんですよ。それも貼っても恥ずかしくないようなカッコいいやつです。一応、駐輪場の管理は一年交替でやっていますが、今年はまだまた僕の番。見回りにしてステッカーを貼っていない自転車やバイクに警告したり、それを報告したりするのが主な役割です」という。

この自治活動が始まる前は、持ち主不明のスクーターが置き去りにされたり、住人以外の人が自転車を停めたりすることもあったそうです。しかし、駐輪場を使うすべての人が共通認識を持って活動を始めたいま、不法駐輪はまったくなくなり、住人が安心して駐輪場を使えるようになったそうです。

「おもしろいのは、スポーツバイクのオーナーが、この活動に積極的なことなんです。やっぱり愛車に対する意識が違ってくるでしょう。結局は自分のバイクは自分で管理する、ということなんです」

# NEW MODEL

## 軽二輪市場を開拓する新商品 プレステージコミューター

# MAJESTY 250

### (マジスティ250)

メーカー希望小売価格 479,000円

※北海道、沖縄および一部地域を除く。  
価格には、保険料、税金(含む消費税)、  
登録に伴う諸費用は含まれません。

8月20日  
新発売

都心部の交通環境下での良好な機動性、ロングランでの余裕、さらに経済的メリットから安定需要を示している250ccスクーター。この軽二輪市場を大きく開拓する新商品が登場します。

ヤマハ「MAJESTY 250」——“プレステージコミューター”をキーワードに新開発したこのモデルは、スポーツ性と快適性を高次元で調和させた250ccスクーター。高い動力性能、優れた操安性、優れたストッピングパワー、優れた居住性、余裕の積載能力、そして横風にも強いエアロダイナミックフォルムなどのコンビネーションが、長距離ランでの群を抜く快適性を具現化しました。



カラーリング：コンペティションシルバー、ディーブレッドカクテル2、ブラック2



# NEW MODEL

## リアハンドブレーキとパーキングロック

φ160mmリアドラムブレーキの操作は、左レバーのハンド操作。また左ハンドル部のレバー操作によりワンタッチでブレーキをロックできるパーキングロック機構も設け、坂道や傾斜地での利便性を確保しています。

## 乗り心地に優れたシート&バックレスト

快適性と足着き性を両立させたロー&ワイドシートを採用。このシートには、好みのポジションや体格に合わせて調整できる可変バックレストを採用しました。ライダーの体重をバックレストと座面に分散させることにより、尻にかかる圧力を軽減してより快適な乗り心地を実現しています。



## 大容量収納スペース

B4アタッシュケース（またはフルフェイスヘルメット）の収納が可能な大容量スペースをシート下に設けました。風などで不意にシートが閉まらないように、シートを開けたままの状態をキープするシート開閉ダンパーを採用。さらに、フロントトランクはカップが2着入る17ℓ容量。クラス初の床下トランクには、サイクルロックなどの収納が可能です。

## 新開発水冷エンジン

新開発の水冷250cc単気筒エンジンを採用しました。最適ボア・ストローク設定（69.0×66.8mm）と4.6ℓ大容量エアクリナーなど、吸排気系とのベストマッチングが、全域での優れた性能を達成しています。また、スロットル開度とスロットル操作速度に応じて最適燃料供給を行なう加速ポンプ付キャブレターを装着し、レスポンスに一層磨きをかけました。Vベルト自動無段変速機構との組み合わせで、滑らかにパワフルな走行性能を具現化しています。



## オイルダンパー内蔵サスペンション

リアサスペンションは、オイルダンパー内蔵で快適な乗り心地を実現。イニシャル5段階調整機能付です。

ヤマハスクーター「MAJESTY 250」●全長2110mm●全幅765mm●全高1330mm  
●シート高700mm●軸間距離1500mm●最低地上高115mm●乾燥重量147kg●エンジン種類空冷4サイクルSOHC2バルブ●気筒数配列単気筒●総排気量249cc  
●内径×行程69.0mm×66.8mm●圧縮比10.0:1●最高出力21.0ps/6500rpm●最大トルク2.4kgf-m/5500rpm●キャブレター型式Y28V×1●始動方式セル式●点火方式トランジスタ●潤滑方式強制送圧ウェットサンプ●エンジンオイル容量1.4ℓ●クラッチ形式乾式内抜連心式●変速機型式Vベルト式無段変速●燃料タンク容量11ℓ  
●緩衝方式(前/後)オイルダンパー/コイルスプリング●ホイールトラベル(前/後)100mm/90mm●ブレーキ形式(前/後)ディスク/ドラム●タイヤサイズ(前/後)110-90-12/130-90-12





# 『MAJESTY250』の 主なセールスポイント

## 優れたウインドプロテクション

ボディマウントのフェアリング及びナックルプロテクションを装備しました。優れた前方視界を確保しながら、走行中の不快な背圧（風の背部への巻き込み）を最小限にとどめるエアロダイナミックフォルムです。

## 60W/55Wハロゲンヘッドライト

ハロゲンヘッドライトにはパッシングライト機能を備えています。

## φ33mmフロントフォーク

インナーチューブφ33mmのテレスコピックフロントフォークを採用。スポーツライクで快適な走行性を生み出しています。

## クラス初の前後12インチタイヤ

クラス初の前後12インチホイールを装着、優れた走行安定性を実現しました。また、フロントブレーキにはφ245mmディスクと異径2ポットキャリパーを装着、強力かつコントロール可能な制動力を確保しています。

## 前後12インチタイヤ

クラス初の前後12インチタイヤを採用しました。



カラーリング：ディーブレッドカクテル2



カラーリング：ブラック2

## 新スポーツセダンの機能を高めるオプションパーツ



リヤボックス  
90793-54011(ブラック)  
90793-54012(シルバー)  
90793-54013(レッド)  
¥13,800



リアキャリア  
44C-W0736-00 ¥9,000

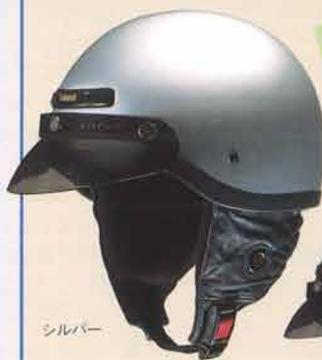


タンデムバックレスト  
90793-66245 ¥11,000



バイクカバー  
90793-64109  
スタンダード ¥14,000  
90793-64115  
キャリア付き ¥15,000  
90793-64116  
ボックス付き ¥16,000

## マジェスティのトランクに2個収納可能!! ヤマハヘルメット「S.J-1」8月20日新発売



シルバー

- JIS B種
- サイズ：S、M、L、XL
- ¥14,800

FRP帽体ながらJIS C種の規格  
いつでも快適なエアインテーク  
本革製のテレ部で高級感を演出

操作性の高いダイキャスト  
ト製ワンタッチバックル  
日差しをやわらげるスモークカラーのバイザー



ブラック

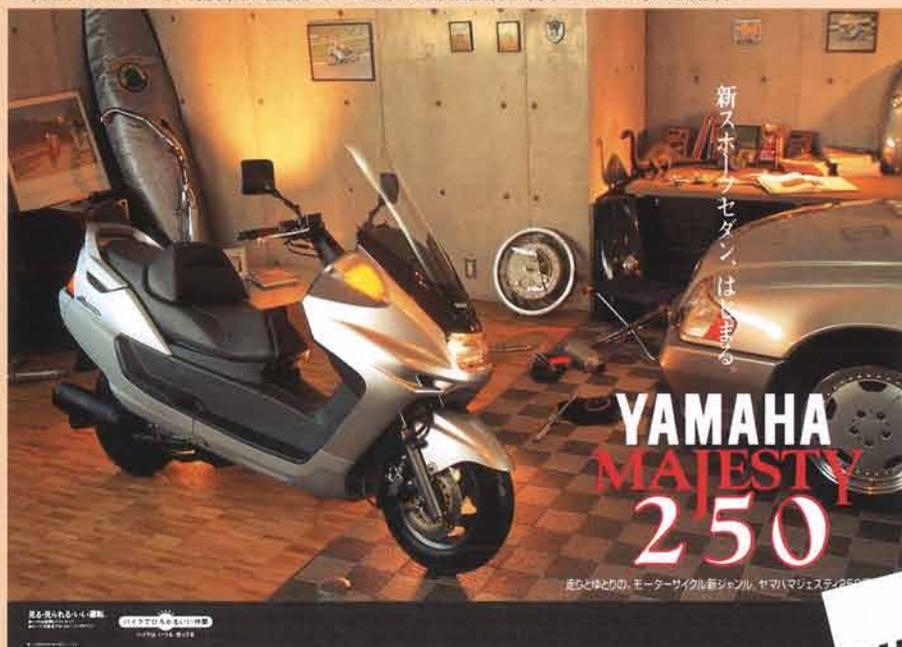


キャンディーレッド

ついに登場「マジエスティ」  
快適さとスポーツ性の高さで  
「新スポーツセダン」を提唱！



▲駅貼りポスターは、7月後半、2種類ならべて東京の地下鉄各線に掲示。さらに8月にも展開する



▲店頭ポスターは都会的センスのデザインを強調

市場の熱いご要望に応じて、ヤマハから250ccスクーター「マジエスティ」がいよいよデビューします。

開発にあたっての基本コンセプトは、スポーティ&コンフォート。ヤマハならではのオリジナリティを豊かなスポーツマインドにあると捕らえ、また、250ccスクーターの真価は長距離走行の快適性だと考えたわけです。

こうして生まれたマジエスティは、機能的で上質な居住性にキビキビした走行性能を兼ね備え、これまでにない商品に仕上がりました。

そこで、デビューを高らかに告げるカタログや雑誌、新聞広告、駅貼りポスターでは、マジエスティを四輪イメージになぞらえて「新しいスポーツセダン」と表現。さらに、精悍なフロントマスクの写真を大胆に使うことで商品性を強調しながら、YAMAHAのロゴを大きく打ち出すことで他社商品との差別化をはかっています。

既存客の代替え活性化はもちろん、これまで見逃していた新規客層さえ店頭に引きつけるマジエスティ効果にご期待ください。



新発売の告知は、8月の専門誌と新聞全国紙で一斉に広告展開。さらに専門誌では、年間を通じて継続掲載する